



■ 1、海外の協定相手校

	校数
協定相手校	3

■ 2、社会貢献活動

	活動数
社会貢献活動	44

■ 3、大学間連携

	連携数
大学間連携	3

■ 4、産官学連携

	連携数
産官学連携	24

1. 海外の協定相手校

国名	大学名	概要
Canada	MacEwan University	現在3大学と大学間連携協定を締結しており、学生交流をはじめ今後教員連携、共同研究を実施予定です。また、本学学生は短期海外研修にて各大学で語学研修および医療施設見学実習等を実施しています。
Australia	Curtin University	
South Korea	Sahmyook University	

2. 社会貢献活動

森ノ宮医療大学 市民公開講座「予防・治療から社会復帰へのケア～最近の進歩～」				参加数
4月14日	第22回	物忘れ	内科医、看護師、本学教員	109
6月16日	第23回	診療放射線学の進歩	診療放射線技師、看護師、本学教員	82
10月27日	第24回	がん診療の最前線2	外科医、本学教員	78

本学が連携協定を結ぶ医療機関の協力を得て年に3回開催する公開講座です。毎回身近な疾患を共通テーマに、基調講演では医師や技士が診断や治療についてわかりやすく講演し、学内の3人の研究者がそれぞれの専門分野を活かしてケアやリハビリなどについて講演します。

森ノ宮医療大学 地域子育て支援事業「もりもりひろば」				家族数	参加数
4月27日	第77回	なににしてあそぼ		3	6
5月25日	第78回	がんばりすぎない子育て		7	15
6月8日	第79回	離乳食から幼児食へ		4	10
7月6日	第80回	保健師課程学生の健康教育「歯みがき」		7	15
9月7日	第81回	ベビーマッサージ		7	15
10月5日	第82回	小児鍼によるファミリーケア		6	14
11月9日	第83回	こどもの感染症を予防しよう		4	9
12月14日	第84回	お母さんのヨーガ		4	9
1月25日	第85回	赤ちゃんの運動発達と遊び方		3	8
3月14日	第86回	乳がんのセルフチェック ※中止		0	0
合 計				45	101

本学看護学科教員が支援する子育て家族支援プロジェクトです。子育て中の家族の交流や、育児に生かせる知識の提供、絵本や親子遊び・集団遊びを通じて地域や親子の絆を深めることを目的に、「育児」や「育自」の知恵、知識そして地域力をパワーアップしていただくための参加型教室です。希望者には身長・体重計測を行っています。

森ノ宮医療大学 介護予防教室「ほほえみくらぶ」(回数 は 年度内の数字)				参加数
4月20日	第1回	スリーA認知症予防ゲーム／たっぶりスリーA認知症予防ゲーム		32
5月18日	第2回	スリーA認知症予防ゲーム／擦過鍼で認知症予防—認知症知らずでほほえんで生きる—		32
6月15日	第3回	スリーA認知症予防ゲーム／タッピングタッチ		28
7月20日	第4回	スリーA認知症予防ゲーム／ニューロダンス！日常生活をリフレッシュ		29
8月17日	第5回	スリーA認知症予防ゲーム／たっぶりスリーA認知症予防ゲーム		23
9月21日	第6回	スリーA認知症予防ゲーム／チェアヨガを体験して、呼吸と簡単な動作を合わせ、心と身体を整えましょう		30
10月19日	第7回	スリーA認知症予防ゲーム／より良く歩くためのトータルエクササイズ①		27
11月16日	第8回	スリーA認知症予防ゲーム／より良く歩くためのトータルエクササイズ②		26
12月21日	第9回	スリーA認知症予防ゲーム／たっぶりスリーA認知症予防ゲーム		25
1月18日	第10回	スリーA認知症予防ゲーム／転倒予防 認知症予防のための棒体操		27
2月15日	第11回	スリーA認知症予防ゲーム／たっぶりスリーA認知症予防ゲーム		22
3月21日	第12回	スリーA認知症予防ゲーム／栄養をバランスよく ※中止		0
合 計				301

本学看護学科教員が「もりもりひろば」の高齢者バージョンとして始めた認知症予防を目的とした教室です。内容は「講習」「体験：脳活性化ゲーム・笑いヨガ・ダンス」「実習：介護福祉機器の使い方・介護食」等を実施しています。

もりもり まちの保健室	概要
-------------	----

<p>毎月1回開催</p>	<p>森ノ宮医療大学 地域の健康に関する相談窓口 「もりもり まちの保健室」</p>	<p>大阪市の南港にある「太陽のまち地区」で開催されている「ふれあい喫茶」の中で、「もりもり まちの保健室」を実施しています。本学看護学科の教員や学生が喫茶の利用者と交流し、健康に関する相談受付やバイタルサインの測定、健康に関する情報提供などを行っています。健康関連の測定やご相談だけでなく、病気や障害、別れをはじめとする「こころ」の悩みも受け付けています。</p>
---------------	--	---

森ノ宮カップ		概要
2月8日 9日	森ノ宮カップ U-12 少年サッカー大会	主催: 森ノ宮医療大学、開催場所: 舞洲スポーツアイランド 本学の広報活動と企業提携の一環として少年サッカー大会を企画運営し、兵庫県、奈良県、大阪府、滋賀県、和歌山県からエントリーした24チームが参加しました。本学鍼灸学科で構成する「メディカルスポーツトレーナー研究会(MST)」(以後MSTと記載)が選手のサポートや保護者向けの「お灸」体験を実施し、高い評価を得ています。
その他のイベント等		概要
6月1日	セレッソ大阪スポーツクラブ ファミリーサッカークリニック	主催: セレッソ大阪スポーツクラブ 本学と連協定を結ぶセレッソ大阪スポーツクラブと親子で参加できるサッカー教室をひらきました。また、本学鍼灸学科のMSTもブースを出展し、保護者の方などにコンディショニングや「鍼(はり)」や「灸(きゅう)」を体験いただきました。
8月30日	認知症サポーター養成講座①	本学看護学科教員が、大阪市立南港北中学校で中学生を対象に「認知症サポーター養成講座」を行いました。第1回目は、認知症の方にしてあげられることを中心に学び、ロールプレイでは認知症の方への声掛けを体験しました。
9月30日	認知症サポーター養成講座②	本学看護学科教員が、大阪市立南港北中学校で「認知症サポーター養成講座」を行いました。第2回目は、認知症をテーマにした教材を用いて道徳の授業を行いました。
10月26日	認知症啓発 日本縦断イベント RUN伴	主催: 特定非営利活動法人認知症フレンドシップクラブ 「認知症の人と一緒にタスキをつなぐ体験を通じて誰もが暮らしやすい地域づくりを推進する活動」をめざす本イベントに、本学作業療法学科の教員が中心となり、「チーム森ノ宮医療大学」として出場しました。
11月2日	咲洲子どもフェスタ 2017(11/2~11/4)	主催: 咲洲子どもフェスタ実行委員会 ATC(アジア太平洋トレードセンター)にて、本学臨床工学科の教員と学生がブースを出展し、静電気で髪が逆立ったり、物が浮いたりする実験や食塩と洗濯のりでスーパーボールを作る体験を実施しました。
11月3日	第5回 ファミリーフェスタ in南港ポートタウン	主催: 住之江区役所、咲洲まちづくりプロジェクトチーム 本学理学療法学科のゼミが参加し、「健康体力測定」を実施しました。ブースを訪れた地域の方々に対して、筋力、柔軟性、バランス能力等の測定を行いました。
11月29日 30日	第9回 大阪マラソン 開催前イベント	企業提携の一環として、ミズノ株式会社が行うランニングクリニックの補助としてMSTが参加しました。また、マラソン参加者を対象とした選手サポートブース(コンディショニング等を行う)を出展しました。大会当日はミズノスタッフとして参加しました。
2月11日	第35回 住之江区民マラソン大会	大会運営および、大阪鍼灸師会による治療ブースの協力と、ボランティアに参加しました。

3. 大学間連携

連携数	連携先
3校	相愛大学、学校法人常翔学園、放送大学

4. 産官学連携

医療施設と密接な協力の連携、人材交流を行うことを目的に、相互連携協定を締結し、学生の実習の場、地域医療の活性化の領域を広げています。

また、近隣及び関係する行政機関とも協定を締結し、学生の教育現場の体験、教職員相互の交流を目指します。

	連携締結年	連携協定締結先	目指す取組の概要等
1	平成22年 4月 6日	地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪急性期・総合医療センター	共同研究の実施、セミナー・研修会への相互受入、人材の相互派遣、本学学生の実習の受入、学生ボランティアの派遣 等
2	平成23年 7月 11日	医療法人協和会 千里中央病院	本学の教員の臨床研究の受入、本学学生の実習の受入 等
3	平成23年 12月 9日	医療法人 錦秀会	共同研究の実施、人材の相互派遣、本学教員の臨床研究の受入、本学学生の実習及び就職の受入 等
4	平成25年 5月 27日	公益社団法人 田附興風会 医学研究所 北野病院	共同研究の実施、本学教員の臨床研究の受入、人材の相互派遣、本学学生の実習及び就職の受入 等
5	平成26年 1月 9日	大阪市住之江区	住之江区の健康づくり事業への教員及び学生ボランティアの派遣、本学学生の教育現場体験の受入、市民公開講座の共催 等
6	平成26年 1月 15日	医療法人 協和会	共同研究の実施、本学教員の臨床研究の受入、人材の相互派遣、本学学生の実習及び就職の受入 等
7	平成26年 2月 19日	中国 浙江省人民医院	(学術交流に関する協定)共同研究の実施、研究者および学生の交流 等
8	平成26年 6月 3日	大阪府 高槻市教育委員会	大学と高槻市立学校教職員の相互交流、本学学生の教育現場体験及び地域活動支援の推進 等
9	平成26年 11月 19日	医療法人社団有隣会東大阪病院	本学教員による臨床研究及び技術指導の受入、人材の相互派遣、本学学生の実習及び就職の受入 等
10	平成26年 11月 25日	吹田市教育委員会	大学と吹田市立学校の教職員相互の交流、本学学生の教育現場体験及び地域活動支援の推薦 等
11	平成27年 2月 19日	学校法人相愛学園 相愛大学	教育研究活動及び大学行事、学生の自治活動及びサークル活動、地域の医療・福祉・健康に関わる貢献等についての連携・協力
12	平成27年 3月 9日	社会医療法人景岳会南大阪病院	本学教員による臨床研究の受入、人材の相互派遣、施設の相互利用、本学学生の実習及び就職の受入 等
13	平成27年 4月 15日	大阪市教育委員会	学校支援学生ボランティア事業
14	平成27年 7月 27日	守口市教育委員会	大学と守口市立学校の教職員相互の交流、本学学生の教育現場体験及び地域活動支援の推進 等
15	平成28年 1月 29日	社会福祉法人帝塚山福祉会	共同研究の実施、本学教員の臨床研究の受入、人材の相互派遣、施設の相互利用、本学学生の実習及び就職の受入 等
16	平成28年 6月 13日	大阪国際がんセンター (旧 大阪府立成人病センター)	共同研究の実施、人材の相互派遣、施設の相互利用、本学学生の実習の受入、大学院生への研究指導の受入 等

	連携締結年	連携協定締結先	目指す取組の概要等
17	平成28年 8月 22日	学校法人 常翔学園	スタッフディベロップメントにおける大学間連携
18	平成29年 2月 24日	社会医療法人純幸会 関西メディカル病院	共同研究の実施、本学教員による臨床研究の受入、人材の相互派遣、本学学生の実習の受入等
19	平成29年 10月 5日	株式会社 かなえるリンク	本学教員による臨床研究の受入、人材の相互派遣、施設の相互利用、本学学生の実習及び就職の受入等
20	平成30年 1月 18日	放送大学	単位互換に関する協定
21	平成30年 1月 26日	公益財団法人日本生命済生会 日本生命病院	共同研究の実施、人材の相互派遣、施設の相互利用、本学学生の実習の受入、大学院生の研究指導の受入等
22	平成30年 4月 19日	ミズノ株式会社	新商品開発・研究面での共同作業の推進、施設の相互利用、高等学校への活動支援、地域への社会貢献活動等
23	平成30年 11月 1日	近畿大学病院	共同研究の実施、人材の相互派遣、施設の相互利用、本学学生の実習の受入、大学院生の研究指導の受入等
24	平成30年 12月 3日	大阪重粒子線センター	共同研究の実施、人材の相互派遣、施設の相互利用、本学学生の実習の受入、大学院生の研究指導の受入等

地域とつながる 森ノ宮医療大学

～2019年度の社会連携事業～

想いのすべてを、医療の力に。



森ノ宮医療大学

学長からのご挨拶

森ノ宮医療大学は、大阪市住之江区の咲洲地区に2007年4月に誕生した医療系総合大学です。現在は、保健医療学部看護学科、理学療法学科、作業療法学科、臨床検査学科、臨床工学科、診療放射線学科、鍼灸学科の7学科と大学院（修士課程・博士後期課程）、助産学専攻科があり、医療職や研究職、教育職に就くことを目指す約1,600名の学生たちが学んでいます。



2020年4月に新たに診療放射線学科、大学院保健医療学研究科看護学専攻（修士課程）を開設いたしました。更なる医療系総合大学として健康や医療に関わる教育研究活動と、社会に向けた情報発信に努めて参ります。近隣にお住まいの皆さまをはじめ、企業や自治体と連携してさまざまな地域貢献活動を進めていきたいと思っております。

2020年8月
森ノ宮医療大学 学長 荻原 俊男

市民公開講座 予防・治療から社会復帰へのケア—最近の進歩—

市民公開講座は大阪急性期総合医療センターと本学の連携事業として2012年にスタートいたしました。「予防・治療から社会復帰へのケア～最近の進歩～」をサブタイトルに掲げ、健康に興味関心のある一般市民の皆さまを対象としたこの市民公開講座の開催も20回を超え、2019年度も3回の市民公開講座を開催し、多くの市民の方々にご参加いただきました。

第1回「物忘れ」

2019年度の第1回市民公開講座は「物忘れ」をテーマに、4月14日（日）本学コスモホールにて開催いたしました。基調講演として、大阪大学大学院医学系研究科老年・総合内科学講師の竹屋泰先生に、ご講演をいただきました。竹屋先生のご講演では、認知症患者の増減の実態を有病率の推移を挙げながらご説明いただきました。また、高齢者の若返りについて馴染みのある国民的アニメの登場人物を例にユーモアたっぷりにお話しいただき、会場の参加者の皆様も、うなづきながら聴いておられました。アルツハイマー病と認知症の違い、また認知症に大切なのは早期診断であることなどの医学的なお話しを経て、最後に患者本人と家族との関わりのお話についてお伝えいただき、考えさせられる充実した内容で、100名を超える参加者の方々にとっても、満足度の高い講演となりました。

次に、大阪急性期・総合医療センター精神科認定看護師の山中美佐先生に「認知症と看護（地域包括ケア）」をテーマにご講演いただきました。山中先生からは「地域包括ケア」についての具体的なイメージをわかりやすくご説明いただき、大阪急性期・総合医療センターでの認知症ケアチームの実際的な取り組み状況をご紹介いただきました。

また、本学からは作業療法学科の松下太教授と鍼灸学科の松熊秀明准教授が、それぞれ「認知症患者とリハビリ」「認知症と鍼灸」のタイトルで講演を行いました。今回の「物忘れ」というテーマに対して、多くの市民の皆さまの反応から、その関心の高さがうかがえる第1回市民公開講座でした。また機会があれば、同じテーマについて視点を変えながら取り上げたいと考えております。多数の方にご参加いただき有難うございました。



第2回「診療放射線学の進歩」

6月16日（日）に第2回市民公開講座「診療放射線学の進歩」を開催いたしました。本学大学院保健医療学研究科保健医療学専攻の小縣裕二教授（現：診療放射線学科長）による基調講演は、「皆さまは『放射線』にどのようなイメージをお持ちでしょうか？」との問いかけから始まりました。現在、主に診療に使用されているX線について、3人の先人（レントゲン博士、トーマス・エジソン、キュリー夫人）の足跡を辿りながら、1895年に発見されて以降、第一次世界大戦を契機にX線検査の有用性が広がるまでを、多くの文献資料を基に講演を行いました。専門的な知識や用語をわかりやすく具体的な言葉に置き換えて説明し、スライドに画像や図を多く用いた講演の内容は、参加者の皆さまにとっても知識として吸収していただきやすかったのではないのでしょうか。基調講演に続いて、大阪急性期・総合医療センター医療技術部部長の船橋正夫先生（現：診療放射線学科教授）は「放射線診断の進歩」、近畿大学病院技術部部長の奥村雅彦先生（現：診療放射線学科教授）は「放射線治療の進歩」をテーマに、放射線がどのように医療の現場で使用され発展してきたのかを、それぞれ「診断」と「治療」の側面から講演を行いました。次に、大阪急性期・総合医療センターがん放射線療法認定看護師の佐々木積子先生に「放射線治療の看護」と題してご講演いただきました。佐々木先生からは、がんに対しての「放射線治療」の実際についてメリット・デメリットや看護師の観点から、わかりやすくご説明いただき、「精神的サポート」が重要な役割の一つであることをお伝えいただきました。



テーマが「診療放射線学の進歩」であり、一般の方にとって興味を持ちづらいのでは…とスタッフ達は心配をしておりましたが、当日は高校・医療関係者の方々をはじめ、放送中のテレビドラマの影響からか、多くの高校生・受験生にも参加いただくことができました。2020年春の診療放射線学科開設に向けて、医療における放射線について興味・関心を持っていただける契機となっていましたら嬉しく思います。

第3回「がん診療の最前線2」

第3回市民公開講座は「がん診療の最前線2」と題し、10月27日（日）に開催いたしました。「がん診療の最前線」は前年の第2回市民公開講座のテーマとして取り上げた際に好評をいただきましたので、今回はその第2弾として4名の講演者により実施いたしました。

基調講演では大阪国際がんセンター総長の松浦成昭先生に、ご講演をいただきました。主要死因別に見た死亡率（人口10万人に対して）の推移のグラフを指し示しながら、日本では毎年100万人ががんにかかり、40万人が亡くなっていること、生涯では2人に1人ががん罹患し、4人から6人に1人ががんで死亡すると推定されているなどをご説明いただきました。しかし一方で、がんを取り巻く医療はこの数十年の間に非常に大きな進歩をとげ、「不治の病」と恐れられていた時代と比べると、現在では6割から7割が治っていると考えられており、がんはもはや必要以上に恐れる病気ではないことも具体的にお伝えいただきました。基調講演に続いて、本学看護学科の久木元由紀子教授が「がん患者の看護」をテーマに、がん体験者に関する実態調査のデータを中心に「アドバンス・ケア・プランニング」について講演いたしました。万が一のときに備えて、どのような医療を望んでいるか、大切なことは何かなど自分で考えたり話し合ったりすることの重要性を、会場の皆さんと一緒に考えることができた内容でした。続いて本学理学療法学科の河村廣幸教授が「がん患者とリハビリ」について講演を行い、「がん口モティブシンドローム（がんによる運動器の障害）」を防ぐためには運動が重要であること、動けるとがん治療の幅が広がること、今わかっている運動の効果などをお伝えいたしました。最後に本学鍼灸学科の増山洋子准教授が「がん患者と鍼灸」をテーマに講演を行いました。がん患者の訴えはがん自体が原因となる痛みだけでなく、副作用による痛みや入院生活の不安感など様々ですが、それらを改善する方法の一つとして「鍼灸治療」があり、統合医療として現在注目されていることをわかりやすく講演させていただきました。今回の「がん診療の最前線」第2弾も、第1弾同様、参加者の皆様から満足度の高い評価をいただくことが出来ました。



もりもりひろば

本学の近隣にお住まいの0歳から1歳半の赤ちゃんとそのご家族を対象に、育児や健康に役立つ情報の提供、家族同士の交流促進などを目的として、大学内で毎月1回「もりもりひろば」を開催しています。看護学科の教員が中心となって運営しており、子育て支援にとどまらず、家族ヘルスプロモーション支援として、お母さんの身体的・精神的健康への提案（がんばりすぎない子育て、お母さんのヨガ、乳がんのセルフチェックなど）にも取り組んでいます。

開催日	テーマ
4/27	なにしてあそぼ（保育士）
5/25	がんばりすぎない子育て（保育士）
6/8	離乳食から幼児食へ（管理栄養士）
7/6	保健師課程学生の健康教育
9/7	ベビーマッサージ
10/5	小児鍼によるファミリーケア（鍼灸学科教員）
11/9	子どもの感染症を予防しよう
12/14	お母さんのヨガ（看護学科教員）
1/25	赤ちゃんの運動発達（理学療法学科教員）
3/14	乳がんのセルフチェック



ほほえみクラブ

地域の高齢者のみなさんを対象に、2015年度から毎月第3土曜日に看護学科教員による介護予防教室「ほほえみクラブ」を開催しています。その活動は、認知症予防ゲーム「スリーA」(※)を柱としていますが、理学療法学科・作業療法学科・鍼灸学科の教員の協力も得て、各学科の特徴を生かした健康のサポートを行っています。



※スリーA増田方式認知症予防ゲーム：スリーA（あかるく・あたまを使って・あきらめない）

もりもり まちの保健室

本学が位置する大阪市住之江区にある、南港ポートタウン太陽のまち地域において、2019年度から毎月1回、地域の高齢者支援を目的とした「もりもり まちの保健室」の活動を開始しました。この活動では、本学ボランティアサークル所属の学生と、看護学科・理学療法学科・作業療法学科の教員が参加し、高齢者の方々の血圧・握力等の測定を行うほか、健康に関する生活上の困りごと等の相談を受け付けています。

また、将来医療の道に進む学生にとっても、この活動は大変有意義なものとなっています。地域に根ざした大学を目指し、今後も継続的に実施していきます。



「認知症サポーター」養成講座

2019年8月30日（金）、9月30日（月）に大阪市立南港北中学校にて「認知症サポーター」養成講座を開催しました。本学看護学科の福島信也教授が講師として授業を行い、本学の3年生も助手として参加しました。

1回目の授業は、認知症の方にしてあげられることを中心とした内容で、ロールプレイでは、認知症の方への声掛けなどを体験してもらいました。2回目の授業では前回の授業を踏まえ、認知症をテーマにした教材を用いて道徳の授業を行いました。認知症の方をサポートするだけでなく、人とのつながり方等についてもクラスで話し合いました。

中学生が認知症について考えるきっかけとなる参加型の講座になりました。



健康体力測定

2019年11月3日（日・祝）に南港ポートタウン内で、大阪市住之江区役所主催の「第5回ファミリーフェスタin南港ポートタウン」が開催されました。本学からは理学療法学科の三木屋ゼミが参加し「健康体力測定」を実施しました。

筋力、柔軟性、バランス能力等の測定項目があり、地域の老若男女約100名が本学のブースを訪れました。参加者は健康志向の方が多く、健康について考える良い機会となりました。

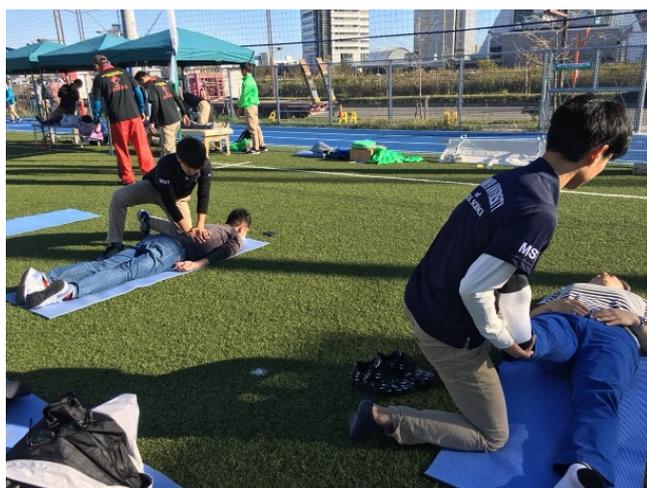
また、将来医療の道に進む学生にとっても、この活動は大変有意義なものとなっています。今後も継続的に実施していきます。



第9回大阪マラソン 開催前イベント

2019年12月1日（日）に第9回大阪マラソンが開催されました。その開催前イベントとして、本学のMST（※）が11月29日（金）、30日（土）にグリーンスクエアで、走者を対象としたケアサポートを行いました。学生たちの貴重な経験になったと同時に、走者の方々にも、より万全な状態で大会に臨んでいただくことができました。

※MST（メディカル・スポーツトレーナー研究会）：鍼灸学科の学生がMFA（メディカル・フィットネス協会）スチューデントトレーナーの資格を保有し、さまざまなスポーツの場でトレーナー活動を行っている団体です。



第35回住之江区民マラソン大会



2020年2月11日（火・祝）に南港中央公園で住之江区体育厚生協会主催の第35回住之江区民マラソン大会が開催されました。本学は「はり・きゅう体験ブース」を設置し、はり・きゅうの体験、ストレッチを実施しました。大阪府鍼灸師会ご協力のもと、鍼灸学科の学生も施術サポートを行いました。将来、鍼灸治療を用いたメディカル・スポーツトレーナーを目指す学生にとっても、貴重な経験の場となりました。

咲洲こどもEXPO 2019

2019年11月2日（土）、3日（日）、4日（月・振休）に「咲洲こどもEXPO 2019」がATC（アジア太平洋トレードセンター）、さきしまコスモタワーで開催されました。本学からは臨床工学科の教員及び学生が「森ノ宮医療大学のお楽しみ実験Show!!」をテーマにブースを設置し、静電気を使って髪の毛を逆立てたり物を浮かせる実験、洗濯のりと塩水を使ったスーパーボール作り体験を実施しました。多くのご家族に参加いただき、大いに盛り上がったイベントとなりました。



森ノ宮カップ

2020年2月8日（土）、9日（日）舞洲スポーツアイランド（舞洲運動広場）にて、「森ノ宮カップ U-12」を開催しました。大阪府と近畿の他4県から全24チームが集まり、サッカーを通じて同世代の仲間と交流を深めました。

本大会は、「セレッソ大阪スポーツクラブ」「大阪咲洲ロータリークラブ」のご協力をいただき、毎年開催しています。

また、本学のMSTが大会の運営および参加選手の救急対応を行い、ストレッチ指導などコンディショニングの重要性を伝えました。今後もスポーツの発展と地域への貢献の一環として活動を続けていく予定です。



韓国Sahmyook University (三育大学) との学生交流

2019年9月17日(火)～19日(木)、2018年に連携協定を締結した韓国Sahmyook University (三育大学)を訪れ、研修を行いました。参加したのは、本学の理学療法学科の3年生と大学院生の13名です。

今回の研修では、1日目に双方の教員・学生からのプレゼンテーションを行い、その後Welcome Partyを開催していただきました。2日目は国立リハビリテーションセンターを訪問し、韓国のリハビリテーションの提供状況やシステムへの理解を深め、最新のロボットリハビリテーションの研究を見学しました。



最終日はリハビリテーションクリニックを訪れ、実際のリハビリテーション医の診療現場を見学しました。日本とは違うprolotherapy (増殖治療)について学びを深めることができました。

学生たちが普段なかなか知る機会が少ない海外の医療について、勉強する貴重な経験となりました。今後もこうした学生交流を行い、より一層連携協定を強固なものにしていきます。

2020年度 市民公開講座のご案内

開催日	テーマ	時間
10月25日(日)	フレイル予防で健康長寿	13:30～15:30
開催場所は森ノ宮医療大学 当日は開催30分前より受付開始【入場無料】		

★フレイルとは…?

「加齢に伴う心身の衰え」のこと。健康長寿の達成には、病気の予防だけでなく、身体面・精神面・社会的な面を良い状態に維持することが大切です。その実現のキーワードとなる「フレイル」を正しく理解し、適切な予防方法を知って、健康長寿を目指しましょう!

※事前申込が必要です。申込方法は本学ホームページをご確認ください。

想いのすべてを、医療の力に。



森ノ宮医療大学

保健医療学部

- 看護学科 ■理学療法学科 ■作業療法学科
- 臨床検査学科 ■臨床工学科 ■診療放射線学科 ■鍼灸学科

大学院 保健医療学研究科

- 保健医療学専攻(修士課程)
- 看護学専攻(修士課程)
- 医療科学専攻(博士後期課程)

専攻科 助産学専攻科(1年課程)

